

令和元年度 厚木東高等学校 第1回 学校運営協議会 会議録

令和元年5月23日(木) 15:00~17:00

場所:会議室 司会:梅澤 広昭 副校長

【学校運営協議会委員出席者】

葉山 征洋 (元中学校校長) 会長
大島 武 (東京工芸大学教授)
實吉 明子 (湘北短期大学教授)
外村 美佳 (厚木市青少年教育相談センター所長)
山田 一志 (本校同窓会前会長)

笹 盛明 (本校PTA会長) 欠席
須藤 雅則 (厚木市立林中学校長) 欠席
山内 太地 (大学イノベーション研究所所長) 欠席

【学校側出席者】

村越 みどり 校長
梅澤 広昭 副校長
中川 美香 教頭
佐々木 肇 事務長
多賀 勝美 学習支援グループ・総括教諭
後藤 里美 生活支援グループ・総括教諭
熊谷 剛 進路支援グループ・総括教諭
早川 健史 広報情報グループ・総括教諭
岸 将史 生徒活動支援グループ・教諭
西野 和男 管理運営グループ・総括教諭
佐々木 康英 広報情報グループ・教諭(記録)

●：学校運営協議会委員 ○：学校職員

4. 厚木東高等学校グランドデザイン

●厚木東高等学校のミッションについては教育庁から特別に与えられたということではないのか。

○再編統合が決まった学校に送られています。

9. 質疑応答及び意見交換

●自宅学習の時間が少ないということだが、学習に向くことができない要素として何が考えられるのか。

○直接調査をしたわけではないがベネッセのスタディサポートの結果によると、入学当初は学習時間が多いが秋には下がる傾向にある。原因として、部活動に加入することが考えられる。教員もそれに対しては課題意識を持っており、週末課題を課すなど対策をとっているが、なかなか学習時間が伸びない現状がある。我々の課題になっているのはたしかである。

●SNS みたいなものの影響はあるとは言えますか。

○ニュースでも見たが、背中で見ると勉強しているようだが実はゲームに没頭している子どもがいる。小中から連携してスマートホンの使い方のルール。高校でもスマホのルールを順守していく形が必要。

○ずっと4年間の懸案の課題である。生徒の勉強に向けての欲がない。進路活動で、如何に自分で調べたり、体験したりをして必要なものに気づいて行動・勉強できるか、が課題である。あと、授業自体が面白いと思って取り組めるかもある。

●生活支援のことについて。多様な生徒学生が多くなって一律の支援がしきれない現状がある。カウンセラーや教員だけでは受け止められない案件があった場合はどういうフローチャートで対応しているか教えてください。

○担任や子ども、保護者から少しでも相談を受けたり、困り感を感じられたらスクールカウンセラーに相談している。そこで新たに分かったことなども踏まえて、専門の機関につなげることもある。そうすることにより、発達段階で課題が見つかることがある。少しでも何か気づいたなら、スクールカウンセラーにつないだり、あるいは保護者をスクールカウンセラーにつないだりし、そして、ケース会議を通していろいろな対応を考え、外部の機関と連携するというを行っている。

○HR でも欠席が目立つ（連続5日間）生徒についての情報共有のきまり、組織的な支援体制ある。

○経験の浅い若い教員が一人で抱え込まないように、みんなで考え、支えていくことが大切だと思っている。

●部活動の加入率が高くて頼もしい。湘北短期大学では、年々サークル活動への加入率が下がっている。日常生活を支えるためのアルバイトをしている学生が増えてきている。授業以外の生活場面をどうやって充実させていくのか。ぜひ、こういう姿勢を維持できるような指導を高校側では続けてほしい。

○本校でも部活動だけでなく、時間を見つけてアルバイトをして社会とのつながりを持つ生徒もいる。同じ出身中学校からの先輩が多いため、高校でも部活動を継続できていることもあるかもしれない。また、部活動に対する姿勢は一生懸命であり、高校での部活動を通して自分を高めたいという姿勢も感じられる。

●部活動の続けたうえでの先のことをぜひ指導してほしい。その姿勢を上級学校としては受け入れて指導につなげていきたい。

●自学力も人間力も挑戦力もみんな必要な力。小学校中学校では不登校の子どもが増えてきている。厚木市も増加の傾向にある。ここ2～3年。子ども自身が抱えている課題や、家庭背景が複雑であったりする。家庭を変えるのはとても難しいため、やはり子どもたちを育てることが大事である。HPの「校長だより」での授業の様子を見ると、全員がのってくる授業をつくるということが大事になってくると思う。まだ、4月5月ですが、スクールカウンセラーの相談件数はどうなっているか。相談回数を毎週にしたところでうまく解消されていくことになったのかどうかをお聞かせ下さい。

○28年度32件、29年度34件、30年度60件。どれも2週間に1回の相談です。なかなか子ども本人を変えられないときには、保護者の面談を積極的にすすめている。関心があった場合は積極的に進めている。今年度は毎週スクールカウンセラーが来て下さるようになったが、予定はうまっている。枚数枠内の1時間をケース会議の時間にあて、勤務時間内に会議を行えるように改善した。

●元気なうちに教員が関わるのが大事。長期にわたり休ませないように関わってほしい。

○厚木市の不登校の対応が手厚いということを感じている。本校の生徒もいろいろな課題を抱えている。一度引き受けた子どもは最後まで面倒をみたい。ただ、その子と向き合っただけ気持ちに寄り添った指導ができるといい。

●人形浄瑠璃の部活は、全国的に有名である。素晴らしい。人形浄瑠璃応援会の会長も引き受けている。自主公演も行う。

普通の部活動よりも専門色がつよい。財政的な支援があるのかどうか。県からの正式な認知あるのか、補助金や支援金が部活にあたっていかない。

本音をいいますと、自主公演をして一口2000円をいただき、活動に充てているが、設備についてはいろいろだが、人形のお顔などの修繕費がかかる。修繕費などの支援金などはあ

るのか。もう少し財政面での点、もう少しご支援をいただけるのか。人形浄瑠璃だけ別物という理解をしているのだが、幅広い財政面での支援は望めるのか。

○相模人形芝居は国が保護すべき文化財に指定されている。国から補助金が出る。県指定文化財にも補助制度がある。人形浄瑠璃は伝統文化活動の一部としての位置づけ。我々のほうもどのような補助のツールがあるのかアンテナを広げていく必要がある。検討したい。

●今年も厚木の小ホールで行いますが、毎年お褒めの言葉でいっぱいです。他の座よりも若さもいっぱいです。そんな中で、お人形やお着物に関しても大変な出費があるので、認定していただけるといいのだが、政治的なものもあるので難しいが、ぜひ認定していただいて、これからの活動に活かしていきたい。

○小ホールは人形浄瑠璃のためにつくられたとも聞いている。その文化を継ぐためにも我々の宿題とさせていただきたい。

●公民館の件。緑ヶ丘公民館でももう少し発表の機会、展示の機会が増やせないのか。

○緑ヶ丘の公民館でも考えていたが、なかなか日程が合わなかった。

●住民としては睦合西公民館よりも緑ヶ丘のほうが行きやすいので、展示だけでもいいのでよろしくお願いします

●高校はいろいろな役目を果たしていることがわかった。またよろしくおねがいします。